

第34回 ジャパンウィーク 2009年 オーストリア・グラーツ

JAPAN WEEK

[開催期間] 2009年11月21(土)~11月26(木)

[開催地] オーストリア・グラーツ



The 34th Japan Week Austria Graz 2009
Period of The Event Nov.21 (Sat) — Nov.26 (Thu) ,2009,6days

財団法人 国際親善協会

ごあいさつ

ウィーンの南に位置し、ユネスコ世界遺産指定の美しい旧市街とユニークな現代建築が対照的なグラーツ。そのグラーツにて日墺交流 140 周年事業として、2009 年 11 月 21 日から 11 月 26 日までの 6 日間にわたり「第 34 回ジャパンウィーク 2009 年オーストリア・グラーツ」が開催された。

さまざまな文化活動を通して日本の素顔を紹介する市民レベルでの国際文化交流を行うこの事業に、日本全国より 28 団体・700 人におよぶ方々がグラーツを訪れた。

また、オーストリア側からも舞台公演、音楽交流フェスティバルそして展示・実演に 70 人のご参加をいただいた。現地参加型の「双方向の交流」（日本側の参加者だけでなく、オーストリア側からも参加いただき「交流」する）を大きなテーマとして、両国民同士のきずなを深めた。

オープニングフェスティバル、舞台公演、音楽交流フェスティバル、展示・実演、そしてさまざまな訪問交流プログラムが 6 日間にわたり行われ、グラーツ市民はじめオーストリア国民が多数来場し、大盛況であった。ジャパンウィークは感動・かけがえのない体験・草の根交流の 6 日間であった。

参加団体一覧

都道府県 団体名

- 青森県 自然食レストラン 洋望荘／野菜細工
- 栃木県 津軽三味線貢清世会／津軽三味線
- 埼玉県 特定非営利活動法人 日本剪画協会／剪画
- 東京都 (株)アートクロス／美術品、久保 徹／うどん実演
The Traditional Japanese Art of Mizuhiki／水引工芸、全日本婚礼美容家協会／婚礼美容
早稲田大学書道会／書道、早稲田ちんどん研究会／ちんどん
- 神奈川県 梨羽太郎／剣舞
- 長野県 長門学院／茶道
- 岐阜県 CENTRE de DANSE de OGAKI／バレエ
日本弦楽指導者協会中部支部 弦楽アンサンブル／弦楽アンサンブル
- 静岡県 がんばる邦楽振興会／邦楽、JAZZ ARAKAWA'S DANCIN／ジャズダンス、松濤流／いけばな
煎茶道静風流／煎茶道
- 愛知県 生田流箏曲寿都音会／箏、太鼓衆 翔鼓／和太鼓、特定非営利活動法人 転輪太鼓／和太鼓
- 滋賀県 山崎昌伸詩画集／詩画集
- 京都府 京小町踊り子隊／創作舞踊、日本伝統古武道法典流練心塾／古武道
- 大阪府 大阪府立芥川高等学校 和太鼓部／和太鼓、マクロビクッキングスクール／オーガニック料理
西日本友好親善訪問団／視察・交流
- 兵庫県 宝塚茶道同好会／茶道
- 和歌山県 スタジオぼこ・あ・ぼこ／タップダンス
- グラーツ 金沢舞踏館／舞踏、NUU／Jポップ、Stevies Wonder Glasses／Hip Hop、Teruhisa Hiraki／バイオリン
HIB.ART.CHOR／コーラス、Sogetsu Ikebana GRAZ／華道、Origin of Ikebana Ikenobo／華道
Yoshiko Kusakawa-KORYU IKEBANA／華道、Origami GRAZ／折り紙、Harald Hengl／茶道

合計 38 団体

CONTENTS 目次

会長挨拶／実行委員会名簿	1
イベント概要	2
事業の実施概要	2～3
オープニング・フェスティバル	4
オープニング・レセプション	5
開催地 周辺地図	6
劇場公演	7～11
音楽交流フェスティバル	12
リボンカッティングセレモニー	13
展示・実演	14～17
表敬訪問	18
交流プログラム	19～25
西日本友好親善訪問団 交流プログラム	26
野外宣伝 (パフォーマンス)	27
現地市民からのコメント	28
街での宣伝・ボランティア一覧	29
新聞記事	30～31
開催時の現地の様子	32

会長挨拶

愛知和男

第34回ジャパンウィーク2009年オーストリア・グラーツ 日本側実行委員長
前衆議院議員 財団法人国際親善協会会長

今回で第34回目を迎えましたジャパンウィークが、日澳交流140周年事業としてオーストリアのグラーツ市において開催され、日本側参加団体および現地関係者の皆様のご協力のもと無事終了できましたことを心より感謝申し上げます。

舞台公演、展示・実演、音楽交流フェスティバル、そしてグラーツ市内の学校や老人ホームへの訪問交流や各種交流プログラムにおいて両国の友好親善の輪を幅広く展開することができました。さらにグラーツ市民の方々の心温まる観覧・見学・交流にのぞむ姿にも深く感銘を受けた次第です。

このジャパンウィーク開催を機に益々日本・オーストリア両国の絆と友情が深まり、未永い様々な交流が続けられることを願ってやみません。今回のジャパンウィークに遠路オーストリア・グラーツまでお出かけいただきました日本側参加団体の皆様方の民間大使としての熱き思いとそのご活躍、そして現地側関係者の皆様のご支援なくしてジャパンウィークは成り立ちませんでした。改めて敬意を込めて、深く御礼申し上げます。

最後に、多大なるご支援・ご協力をいただいたオーストリア側および日本側関係者の皆様方そして連日連夜にわたりジャパンウィークの運営に携わっていただいたボランティアの皆様方に深く感謝申し上げるとともに、今後とも皆様のご支援・ご指導によりジャパンウィークを発展・向上させて開催国との友好と国際親善の輪を広げ、世界の恒久平和の輪を築くことを祈念して挨拶とさせていただきます。

実行委員会名簿

■日本側

実行委員長	愛知 和男	前衆議院議員 財団法人国際親善協会会長
名誉顧問	田中 映男	在オーストリア日本国大使館 特命全権大使
理事	香山 充弘	財団法人自治体国際化協会理事長 財団法人国際親善協会評議員
理事	今村 忠雄	社団法人日本海外協会会長 財団法人国際親善協会評議員
理事	佐々木隆之	西日本旅客鉄道株式会社代表取締役社長
理事	兵頭 誠	日本興亜損害保険株式会社代表取締役社長 財団法人国際親善協会理事
理事	上川 裕秀	株式会社日本航空インターナショナル常務執行役員 財団法人国際親善協会理事
理事	見並 陽一	東日本旅客鉄道株式会社常務取締役
理事	丸尾 和明	株式会社日本旅行代表取締役社長 財団法人国際親善協会理事
事務局長	古田 親吾	財団法人国際親善協会常務理事

■オーストリア側

実行委員長	Siegfried Nagl	グラーツ市長
理事	Lisa Rücker	グラーツ副市長
理事	Franz Voves	シュタイヤマルク州知事
理事	Hermann Schützenhöfer	シュタイヤマルク州副知事
理事	Elke Edlinger	グラーツ市議会議員
理事	Detlev Eisel-Eiselsberg	グラーツ市議会議員
理事	Sonja Grabner	グラーツ市議会議員
理事	Elke Kahr	グラーツ市議会議員
理事	Wolfgang Riedler	グラーツ市議会議員
理事	Gerhard Rüschi	グラーツ市議会議員
理事	Barbara Kaiser	エッケンベルグ城博物館館長
理事	Roberta Maierhofer	グラーツ大学副学長
理事	Peter Pakesch	ジョアネウム博物館館長

イベント概要

開催都市	オーストリア共和国グラーツ市
開催期間	2009年11月21日(土)～26日(木)6日間
開催規模	日本側参加者 約700人
現地側参加	見学者 約14,000人
日本側主催	財団法人国際親善協会
開催国側主催	グラーツ市
後援	在オーストリア日本国大使館、経済産業省、国土交通省、文部科学省、オーストリア政府観光局、日本政府観光局(JNTO)、独立行政法人国際交流基金、日本貿易振興機構(ジェトロ)、財団法人自治体国際化協会、財団法人地域伝統芸能活用センター、社団法人日本海外協会
助成	財団法人双日国際交流財団
協賛	日本航空、日本興亜損害保険株式会社、株式会社みずほコーポレート銀行、西日本旅客鉄道株式会社、東日本旅客鉄道株式会社、株式会社日本旅行
目的	「ジャパンウィーク」は、日本の生活文化、芸能、美術、音楽、ファッション、スポーツ、経済等を通じて日本を紹介するとともに、開催地住民も参加し、市民レベルの文化交流により、相互理解・友好親善を図る。 各会場での公演、展示、実演などによって構成されているが、一方通行の文化紹介にとどまることのないよう、開催地の人々の参加を促し、心と心がふれあう交流を実現できるワークショップ等のプログラムづくりにも力を入れている点にその特徴がある。

事業の実施概要

1. ジャパンウィーク運営組織について

当事業は日本・オーストリア両国に各々実行委員会を組織し、日本側は愛知和男/財団法人国際親善協会会長が実行委員長を務め、オーストリア側はジークフリート・ナーグル グラーツ市長を実行委員長とし、両国事務局互いの協力のもと、開催会場・施設の決定や告知PR活動・イベントの取り纏めなどを推し進めた。特に開催会場・施設については各実施予定プログラムの主旨をグラーツ市に理解していただき、主なイベント会場を市の中心部にご用意頂いた。

日本より都合5回に亘る現地打合せ、電話および電子メールでの情報交換・諸々の折衝を行い相互の協力体制を着々と築き上げ成功へのステップを確かなものにして行った。

日本側では2008年の夏より全国に招致活動・告知活動を開始し、並行して関係資料の作成・説明会の実施などを行い、参加団体応募の後は各団体と参加プログラム、荷物の輸送の打合せ、各公式行事やイベントプログラムのアレンジなど数多くの業務をこなしてきた。

2. 広報・告知について

現地側広報・告知に関しては、グラーツ市、グラーツ市観光局そしてコーディネーターの皆様にご協力いただいたおかげで観客動員ができた。下記が関係各機関にご協力いただいた広報・告知活動である。

(1) メディアでのプロモーション

ウェブサイト、新聞を中心としたPR展開を実施していただいた。

① グラーツ市観光局のウェブサイト

観光局のウェブサイトに、当協会のホームページのリンクをはり、またジャパンウィーク・グラーツ専用のホームページを立ちあげていただいた。

② 新聞、雑誌

グラーツの新聞、KLEINEにて、7月末からジャパンウィーク関連記事、および参加団体について計11回記事を掲載していただいた。また、文化専門新聞KORSO、文化雑誌BIGとWAS IST WOにも開催前にジャパンウィークをご紹介いただいた。

③ テレビ

11月21日、オープニングフェスティバル時に国営テレビの取材があった。

(2) PR ツール作成およびその配布

下記①は9月、②～⑥は11月より展開、①・②・③の配布先は駅、レストラン、ホテル、市内学校等

- ① 告知用折りたたみリーフレット (10.5cm × 21cm) 25,000 枚
- ② イベントプログラム (15cm × 18cm) 5,000 部
- ③ トライアングルボード (立地型三面の広告ボード) 20 個
- ④ ヤミクニ広場での電子ビデオボード 11月13日～21日、1日20回ジャパンウィークの紹介
- ⑤ ポスター トラム、バスの側面でも PR
 - A1 サイズ (59.4cm × 84.1cm) 300 枚
 - A2 サイズ (42cm × 59.4cm) 200 枚
 - A3 サイズ (29.7 × 42cm) 300 枚
- ⑥ オールアップ (布製の立地型看板) 6 ピース (市庁舎、劇場、展示会場等)

3. 各イベントプログラム

ジャパンウィークの大きなテーマは「双方向の交流」であるが、日本側のみの参加だけでなく舞台公演、展示・実演についてオーストリア側からの団体にも参加していただき、出演者、展示者間の交流が深まるようイベント作りをした。

イベントは11月21日(土)の午後にマリアヒルファー広場にてオープニング・フェスティバルが開催されジャパンウィークの幕があけた。その後、ミノリテンザールでのオープニング・レセプション、オルフェウムでの舞台公演と続いた。舞台公演は25日(水)まで毎日開催され、26日(木)には公演の最後として、ステファニエンザールにて音楽交流フェスティバルが開催された。

展示・実演は22日(日)のシュタイヤマルク州による、リボンカットティング&レセプションに始まり、26日(木)まで実施された。

交流プログラムの学校訪問については10団体、老人ホームについては2団体が参加し、美術専門学校との交流プログラム、料理交流プログラム、舞踊交流プログラム、バレエ交流プログラム、家庭料理交流プログラムにはそれぞれ1団体ずつ参加し、各団体ともに肌と肌をふれあう心のこもった草の根交流に大感激していた。

毎年参加いただいている西日本親善訪問団は、鉄道シンポジウム、交流会イベントおよびグラーツナイトにて大いに親善交流の輪を広げていただいた。

4. 在オーストリア日本国大使館のご協力とボランティアの活躍

特に今回のジャパンウィークが大盛況に終えることができたのは一重に在オーストリア日本国大使館の田中大使、公式プログラムにご臨席をいただいた神山公使ご夫妻をはじめ大使館の皆様のご協力による賜物である。

今回も数多くのボランティアの方々に協力して頂いた。ボランティアについては、グラーツ在住のオーストリア人および学生、日本人留学生、在留邦人など幅広い方々にご協力いただいた。ジャパンウィーク・スタッフの一員として朝早くから夜遅くまで本当に頑張っていた。ボランティアの方々の協力無くして、ジャパンウィークの成功はありえなかったと言っても過言ではない。

5. グラーツにおけるスタッフの活躍

グラーツでのジャパンウィーク開催が決定してからイベントが終了するまで、グラーツにおける以下の方々には、日本側との実務上のきめこまやかな打ち合わせと準備で大変ご協力いただき、彼らの活躍が今回のジャパンウィークを成功へと導いた。

- | | |
|-------------|---|
| コーディネーター | Mag. Dr. Monika Cigler |
| グラーツ市観光局 局長 | Mag. Dieter Hardt-Stremayr
Mr. Heinz Kaltschmidt |
| グラーツ市国際部 | Mag ^a . iur. Claudia Sachs-Lorbeck |

オープニング・フェスティバル

[日時] 11月21日 (土) 15:00~17:00
 [場所] マリアヒルファー広場 特設ステージ
 [観客数] 1,500名 [天候] 晴れ

日本側

愛知和男財団会長、神山武在オーストリア日本国大使館公使、宮坂寿彦理事代理、上川裕秀理事、鈴木勝雄理事代理、古田親吾財団常務理事

オーストリア側

ジークフリート・ナーグル市長、デトレブ・アイゼル市議会議員、アイゼルベルグ市議会議員、ソニア・グラープナー市議会議員、クアハート・リュウシュ市議会議員、マリオ・エウスタキオ市議会議員、ピーター・ピプル パルチュビッチグラーツ市国民党首、ロベルタ・マイアーホーファーグラーツ大学副学長

参加者

太鼓衆翔鼓、京小町踊り子隊、CENTRE de DANSE de OGAKI、
 転輪太鼓、早稲田ちんどん研究会

観客数：1,500名 天候：晴れ

この時期のヨーロッパでは珍しい、朝から雲ひとつない快晴、気温も上がりこれ以上は望めない最高の日和となり、超満員の観客が広場を埋め尽くしてくれた。今回のジャパンウィークの成功を確約してくれている感のあるオープニング・フェスティバルになった。

いよいよ開幕、早稲田ちんどん研究会のコミカルな衣装とパフォーマンスでオープニング・フェスティバルの幕が開き、大きな拍手が送られた。

グラーツ市長、愛知会長、神山公使のご挨拶に続き、転輪太鼓の勇壮な和太鼓の音が響き渡ると、観客のどよめきがあがった。京小町踊り子隊による初々しく美しい群舞、そして再び太鼓衆翔鼓のみなさんによる和太鼓演奏とつづいた。

そして締を飾るのは、CENTRE de DANSE de OGAKIによるバレエ「瀕死の白鳥」。その洗練された技量に皆酔いしれていた。

観客は、最後まで誰一人帰ること無く、暖かい大きな拍手を送ってくださっていた。終焉後、出演者たちの顔が達成感と満足感で輝いていた。



転輪太鼓



京小町踊り子隊



CENTRE de DANSE de OGAKI



太鼓衆 翔鼓



早稲田ちんどん研究会



オープニング・レセプション

[日時] 11月21日 (土) 17:30~19:30

[場所] ミノリテンザール

日本側

愛知和男財団会長、神山武在オーストリア日本国大使館公使、宮坂寿彦理事代理、上川裕秀理事、鈴木勝雄理事代理、古田親吾財団常務理事

オーストリア側

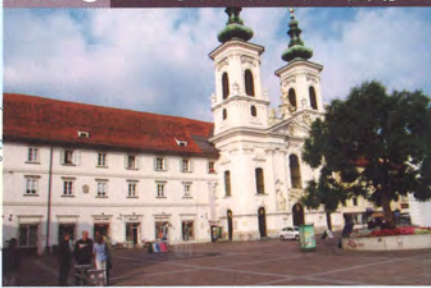
ジークフリート・ナーグル市長、ソニア・グラープナー市議会議員、クアハート・リュッシュ市議会議員、マリオ・エウスタキオ市議会議員、ピーター・ピプル ペルチュビツチグラーツ市国民党首、ロベルタ・マイアーホーファーグラーツ大学副学長

参加団体 18団体

「オープニング・フェスティバル」を穏やかな日よりの中で無事に終えることができたおかげで、和やかな雰囲気レセプションを始めることが出来た。レセプションスタート時には地元の舞踊音楽演奏グループが軽やかな音楽で出迎えた。レセプションはほぼ時間通りに始まり、日本・オーストリア双方のスピーチが参加者の気持ちを高揚させてくれた。愛知会長とグラーツ市長との両国を代表するプレゼント交換の後、参加証書がグラーツ市長より各出席団体代表にステージ上で手渡された。引き続き、グラーツ市長より「乾杯」の挨拶がなされ、参加者は舞踊音楽演奏を聴きながらグラーツ市にご用意いただいた飲み物やパーティー料理を楽しみ、両国の実行委員会と歓談をした。また、最後にはステージに上がってグラーツ市長や愛知会長と記念撮影をする団体が多数あり、思い出に残るレセプションのひとつときであった。



MAP ① マリアヒルファー広場



MAP ② ミノリテンザール



MAP ③ オルフェウム



MAP ④ アルテ・ウニヴェルシタート



MAP ⑤ ステファニエンザール



MAP ⑥ スタッド・ミュージアム



劇場公演

グラーツの中心、市庁舎前の広場のクリスマスマーケットスタンドの中の一番目立つ場所に、グラーツ市観光局がジャパンウィーク舞台公演および茶道チケット予約スタンドを11月10日すぎに設置した。スタンド設定後すぐに、週末のオルフェウムの「劇場公演」のチケットが予約でいっぱいとなった。結果として、オルフェウムでの「劇場公演」とステファニエンザールでの「音楽交流フェスティバル」はすべて満員御礼となった。又、各参加団体の演技終了後の感動と感激に満ちた表情を間近に感じ、このイベントの成功を劇場公演で確信した。

観客の反応も大喝采の拍手の連続、ときにはスタンディングオベーションもあり、公演は大成功のうちに幕を下ろした。

劇場公演 11月21日

[日時] 11月21日 (土) 19:30~21:50

[場所] オルフェウム

[観客数] 600名 (満席)

参加者

転輪太鼓、がんばる邦楽振興会、NUU (現地参加)、JAZZ ARAKAWA'S DANCIN、太鼓衆 翔鼓

劇場公演の初日、開場時間前に長い列が出来るほどの盛況さ。結局、入りきれない観客がかなりいたと聞いた。転輪太鼓の勇壮な和太鼓演奏で幕が開き、がんばる邦楽振興会の琴の演奏と続き、休憩を挟んでNUUのJポップ、JAZZ ARAKAWA'S DANCINのジャズダンスと続き、最後は太鼓衆・翔鼓の和太鼓演奏で締めくくった。

無事、初日の舞台が終了。満員の客席からの拍手が出演者の表情を輝かせることを実感。あらためて満席のありがたさに感謝。

転輪太鼓



がんばる邦楽振興会

JAZZ ARAKAWA'S DANCIN



NUU (現地参加)



太鼓衆 翔鼓

劇場公演 11月22日

[日時] 11月22日 (日) 16:30~18:30

[場所] オルフェウム

[観客数] 600名 (満席)

参加者

京小町踊り子隊、早稲田ちんどん研究会、
CENTRE de DANSE de OGAKI、転輪太鼓

京小町踊り子隊の若くみずみずしい踊りで幕を開け、早稲田ちんどん研究会の軽快な演奏と日本の伝統芸の技と演技は今年も客席の微笑みをさそった。

続いては CENTRE de DANSE de OGAKI の子どもたちのバレエ「浜辺の歌」にあたたかい大きな拍手が送られていた。

最後は、転輪太鼓の演奏をたっぷりとグラーツの皆さんに聞いていただいた。アンコールの後、鳴り止まぬ拍手の中をようやくカーテンを閉じ、2日目も無事終了。



京小町踊り子隊



CENTRE de DANSE de OGAKI



転輪太鼓



早稲田ちんどん研究会



梨羽太郎



早稲田ちんどん研究会



CENTRE de DANSE de OGAKI

劇場公演 11月23日

[日時] 11月23日 (月) 19:30~21:05

[場所] オルフェウム

[観客数] 600名 (満席)

参加者

早稲田ちんどん研究会、梨羽太郎、NUU (現地参加)、
CENTRE de DANSE de OGAKI

3日目の月曜の夜も、昨晚同様満員の観客で埋め尽くされた。

早稲田ちんどん研究会のコミカルな衣装と、なぜか哀愁漂う演奏に、客席からは笑いと拍手が送られていた。続いて静寂の中、梨羽太郎の勇壮な剣舞に観客は固唾をのんで引きつけられていた。そしてNUUのJポップと続く。NUUの透明感ある歌声には大きな拍手が送られていた。

最後は、CENTER de DANSE de OGAKIのバレエ3曲。中でも2曲目の「モルダビア」は圧巻で、ものすごい拍手が鳴り止まなかった。

3日間が無事終了し、改めて満員の観客に感謝、感謝でした。

劇場公演 11月24日

[日時] 11月24日 (火) 19:30~21:35

[場所] オルフェウム

[観客数] 600名 (満席)

参加者

生田流箏曲寿都音会、日本伝統古武道法典流練心塾、スタジオぽこ・あ・ぽこ、金沢舞踏館 (現地参加)

生田流箏曲寿都音会の琴の演奏で幕を開け、日本伝統古武道法典流練心塾による武道演武披露と続き、古武道披露の緊張感が客席にも伝わり、観客は静寂さの中、目をこらしてステージの演武を見ていた。

休憩を挟んでスタジオぽこ・あ・ぽこの軽快なタップダンス披露。和服をまとったのタップダンスという和洋融合を観客は楽しんでいた。最後は、地元グラーツのパフォーマーも加わった金沢舞踏館の皆さんによる舞踏披露。一種独特の雰囲気のある舞踏に、大きな拍手が送られていた。



日本伝統古武道法典流練心塾



スタジオぽこ・あ・ぽこ



金沢舞踏館 (現地参加)



生田流箏曲寿都音会

劇場公演 11月25日

[日時] 11月25日 (水) 19:30~21:45

[場所] オルフェウム

[観客数] 600名 (満席)

参加者

全日本婚礼美容家協会、津軽三味線貢清世会、
Stevies Wonder Glasses (現地参加)
大阪府立芥川高等学校和太鼓部

全日本婚礼美容家協会の着物ショーで幕を開け、津軽三味線貢清世会の琴と三味線の演奏が続く。全日本婚礼美容家協会の着物ショーは地元グラーツのボランティア総勢15名がモデルとなって協力、すばらしい着物ファッションショーを作り上げてくれた。花嫁衣装に身を包んだ地元のモデルの美しさに、日本人の先生方もうっとりさせられ、客席からは割れんばかりの拍手が送られていた。津軽三味線貢清世会は、琴と三味線の音色をたっぷりと聞かせ、観客も堪能していた。休憩を挟んで、地元プロのヒップホップグループ・Stevies Wonder Glassesと大阪府立芥川高等学校和太鼓部とのコラボレーション演奏は、今までに無い試みが成功し大きな拍手を受ける。

最後は、大阪府立芥川高等学校和太鼓部の和太鼓演奏。全体が見事に構成され、演奏技術のすばらしさと高校生のみずみずしい迫力が、観客を酔わせ拍手の渦を巻き起こした。終演後も、その余韻はしばらく場内に漂っていた。

今日も、成功裡に終了することができた。



全日本婚礼美容家協会



大阪府立芥川高等学校和太鼓部



津軽三味線貢清世会



Stevies Wonder Glasses (現地参加)

音楽交流フェスティバル

【日時】11月26日（木）19：30～22：00

【場所】ステファニエンザール

【観客数】1,200名（満席）

参加者

日本弦楽指導者協会中部支部弦楽アンサンブル、
HIB.ART.CHOR（現地参加）、Teruhisa Hiraki（現地参加）、
津軽三味線貞清世会、大阪府立芥川高等学校和太鼓部



日本弦楽指導者協会中部支部弦楽アンサンブル



Teruhisa Hiraki（現地参加）



HIB.ART.CHOR（現地参加）



津軽三味線貞清世会



大阪府立芥川高等学校和太鼓部

ジャパンウィークの最終日。会場が変わって、コンサートホール・ステファニエンザール。会場の収容人員が1200名と大きく、観客の入り心配だったが、おかげさまで今日も満席、グラーツ市、および観光局のPRに改めて感謝。

日本弦楽指導者協会中部支部弦楽アンサンブルの弦楽アンサンブルで幕を開け、地元子どもたちのコーラスグループHIB.ART.CHORが加わった「ふるさと」を、弦楽アンサンブルの演奏で彼らが歌って大拍手。

続いては、地元在住15才のヴァイオリニスト、Teruhisa Hirakiのヴァイオリン演奏。彼の演奏は将来ソリストとして大いに期待されるすばらしい演奏で、観客を魅了していた。

休憩を挟んで、津軽三味線貞清世会の琴と三味線の演奏、ソプラノ歌手との創意あふれるコラボレーション。そして最後は大阪府立芥川高等学校和太鼓部による和太鼓演奏。昨夜も見せてくれた演奏の見事さ、全体の構成の魅力、演奏技術のすばらしさ、そして高校生の若い迫力が、観客心を充分にとらえていた。鳴り止まぬスタンディングオベーション。今回のジャパンウィークの締めくくりにふさわしい演奏であった。

出演者の皆様、現地側の主催者であるグラーツ市および観光局、そして観客の皆様に変更して感謝の気持ちでいっぱいになった。



リボンカッティングセレモニー

【日時】 11月22日 (日) 10:00~12:00

【場所】 アルテ・ウニヴェルシダート

【観客数】 400名

日本側

愛知和男財団会長、神山武在オーストリア日本国大使館公使、宮坂寿彦理事代理、上川裕秀理事、鈴木勝雄理事代理、古田親吾財団常務理事

オーストリア側

クルト・フレッカーシュタイヤマルク州議会議長、ソニア・グラープナー市議会議員、ベルタ・マイアーホーファーグラーツ大学副学長

参加団体 13団体

朝は濃い霧に包まれていたグラーツの町も、時間とともに晴れ渡った11月22日の日曜日、シュタイヤマルク州が所有するアルテ・ウニヴェルシダートで、リボンカッティングセレモニーは開催された。最初に、シュタイヤマルク州議会議長のクルト・フレッカー氏より両国の列席代表者の紹介と開催の挨拶があり、ひきつづき愛知会長より開会の挨拶と今回の展示・実演のご参加者の紹介があったが、ご参加の各グループに質問を投げかけたり、今回のジャパンウィークへの参加についてのコメントを求めたりして和やかな雰囲気を作り出していた。最後に在オーストリア日本国大使館の神山公使よりドイツ語と日本語でのご挨拶をいただいた。続いて、愛知会長とフレッカー議長によるリボンカッティングが行われ、それを合図にシュタイヤマルク州主催の歓迎レセプションが行われ、軽食とドリンクが振る舞われた。その後、日奥両国の列席代表者による展示会場の巡回が行なわれ、フレッカー議長は日本側の実行委員とともに展示・実演のご参加者に声をかけられ、展示作品と実演に見入って、当初の予定を延長して会場を見て回られた。



展 示・実 演

本年は、一般の展示・実演参加者の皆様はアルテ・ユニヴェルシダート、株式会社アートクロスの美術展はスタッド・ミュージアムと、2箇所での展示となった。

アルテ・ユニヴェルシダートでは、ご参加された皆様及び現地グラーツの華道、茶道、折り紙グループのご協力により、会期の後半にも実演を行うようにプログラムを組むことができた。また、茶道会場も展示会場と同じ場所であり、会場は大変多くの来場者で活気のある展示会場となった。開催日2日目の11月23日（月曜日）には、ジークフリート・ナーグルグラーツ市長もご夫人同伴で展示会場を訪れて、展示・実演を十分楽しんでいただいた。

また、スタッド・ミュージアムでは日本画から水墨画、洋画、書道、工芸におよぶ約100点の作品が展示され、グラーツの市民の皆様には、各カテゴリー別に展示された日本美術の歴史、伝統、多様性を楽しんでいただいた。

アルテ・ユニヴェルシダート [日時] 11月22日(日)～26日(木)



The Traditional Japanese Art of Mizuhiki

水引をデコレーションした屏風を中心に、水引の伝統技術の基本を守りながら、自由奔放にデザインされた、ギフト・ラッピング、インテリア、グリーティング・カード、テーブルセッティングなどの、様々な結びのデザイン作品を紹介いただき、水引を用いたラッピング等を実演で披露した。その華麗な展示と熱心な実演をグラーツの市民に楽しんでいただいた。

久保 徹

西洋のスパゲッティと東洋のうどん、小麦粉文化についてお話いただき、「讃岐手打ちうどん」を、生地作り、のばし、切り、茹でのすべての行程を紹介すると共に、現地の方にも参加していただき、出来上がったうどんを食していただいた。

ご来所された市民の皆様はお箸の使い方はご存知ないながらも、すべりやすいうどんを懸命に掴み、楽しみながら日本の「うどん」を召し上げていただいた。





特定非営利活動法人 日本剪画協会

黒い和紙をナイフで切り抜き、台紙に貼って完成させる絵画、剪画の素晴らしさを12枚の作品で紹介していただいた。来場者は日本を代表する風景や情景を描いた心温まる作品に顔を近づけ、その繊細な技法に感心して、多くの方が写真を撮られていた。

松濤流

白と黒を基調とした華道作品の展示をしていた。また来場者には先生の指導の下、赤いカーネーション等を用いた「自由花」の作品を作ってもらい、ワークショップを楽しんでいただいた。



山崎昌伸詩画集

京都・美山詩画集 山崎昌伸としての作品を紹介していただき、来場者には誕生花、その花言葉、好きな言葉、名前を色紙に書いた心のこもった作品を実演として制作し、さしあげていただいた。来場者の中には、何回も訪れ、友人に紹介するなど、大変興味をもたれた方々も多くおられた。



早稲田大学書道会

60余年の伝統の、早稲田大学における唯一の公認書道系サークル。8作品を展示していただき、来場者には名前を漢字で書き、それを手本に来場者自らが描くように、手を添えて教えるなどのワークショップを実施していただいた。





自然食レストラン 洋望荘

野菜で花や動物を作るアート、野菜細工（むきもの）の作品をご紹介いただいた。

人参の百合、キュウリの菊、黒紙での蝶などの繊細で美しい作品に皆驚き、桂剥きなどの包丁さばき、11才の息子さんの握るすしに皆拍手で喝采されていた。

宝塚茶道同好会

青竹と灯籠を用いた结界を会場中央に設置した茶席で、紅茶、ウーロン茶と緑茶、お茶の成分などお茶についての解説と、お手前の披露をしていただいた。来場者は茶菓子を召し上がり、お作法を教わりながらお茶を召し上がり、来場者も先生をはじめ宝塚茶道同好会の皆様も大変よろこんでいただいた。ご来場された隣同士に座った親子が、お茶を召し上がったとたんに目を見つめあう姿は大変ほほえましいものであった。



長門学院

自らドイツ語で説明され、しちりきを演奏された後にお手前披露された。桜の花と葉をイメージしたお茶菓子はかわいらしく、お作法、お茶席等の茶道の説明には多くの方々が質問をされ、お茶席が終わった後でも引き続き残って質問をされていた。

煎茶道静風流

朝日で富士の白雪が輝いて大変すばらしい様子を描いた掛け軸を飾られ、「宇治の誉れ」の茶葉を、日本人には美味しいお茶の温度では海外の方には草の匂いが強いとのことで、高めの温度で提供いただき、カテキンの効能も強まるのお話をいただいた。午前4回午後6回の合計10回ものお茶席を設けていただいた。



スタッド・ミュージアム [日時] 11月22日(日)～26日(木)

株式会社アートクロス

株式会社アートクロスがスタッド・ミュージアムにて「～日本・オーストリア外交140周年記念～Japan Art Festival in Graz 2009」を開催いただいた。約100点の日本美術の作品は5部門に分かれて展示された。ご来場された市民の皆様は高齢のご夫婦が大多数を占めていたが、学生の団体や若い方が一人で訪問される方もいた。スタッド・ミュージアムのスタッフも普段とは違う活気あふれた博物館内の雰囲気驚いていた様子だった。



展示・実演 現地参加団体

現地参加団体として、グラーツからは下記5団体が日本の文化を紹介していただいた。

華道 Sogetsu Ikebana Graz
Origin of Ikebana Ikenobo
Yoshiko Kusakawa-KORYU IKEBANA

折り紙 Origami Graz

茶道 Harald Hengl

上記5団体ともに、展示および実演をご来場いただいたグラーツの市民の方にご披露いただいた。ご来場された市民の方とそれぞれ団体の方が熱心に質問とその受け答えを交わしていただく様子が見受けられた。日本からの参加者の皆様ばかりでなく、現地側の参加者の皆様も大いに展示・実演会場を盛り上げていただいた。



Origin of Ikebana Ikenobo



Yoshiko Kusakawa-KORYU IKEBANA



Harald Hengl



Origami Graz



Sogetsu Ikebana Graz



表敬訪問

【日時】 11月23日（月） 14：30～15：30

【場所】 グラーツ市庁舎

市庁舎内の市議会場にて、宝塚茶道同好会、梨羽太郎、The Traditional Japanese Art of Mizuhiki、CENTRE de DANSE de OGAKI、スタジオぽこ・あ・ぽこの皆様がお待ちになる中でジークフリート・ナーグルグラーツ市長がご来場し、表敬訪問がスタートした。

はじめに市長から歓迎のご挨拶をいただき、そしてオープニング・レセプションにご参加されなかった団体代表へ市長より「参加証書」が手渡され、同時に各団体代表より自己紹介が行われ、市長には興味深く話しを聞いていただいた。

その後、場所をレセプションバンケットに移し、グラーツ市側にご用意いただいた軽食と飲み物を味わいながら、参加団体の皆様は市長との歓談や写真撮影を楽しんだ。



交流プログラム（学校訪問）

京小町踊り子隊

[日時] 11月23日（月）09：30～11：45
 [学校名] シュールシュベスターン・エゲンベルク小学校
 (VS Schulschwestern Eggenberg)
 [交流場所] 小学校体育館
 [交流対象] 小学生(6～9歳) 約300名

京小町踊り子隊の皆様が学校に到着した時から、生徒と先生は大喜びであった。体育館で京小町踊り子隊の皆様は華やかな踊りを披露いただき、最後の曲としてピカチュウの歌を歌っていただき、生徒たちは大変な盛り上がりであった。そしてあるクラスの生徒たちは京小町踊り子隊の皆様には踊りを披露し、また生徒たちは自分たちが描いた絵をプレゼントして交流を楽しんだ。



太鼓衆 翔鼓

[日時] 11月23日（月）08：30～11：30
 [学校名] ベルタ・ヴォン・ストナー小学校
 (VS Bertha von Suttner)
 [交流場所] 小学校体育館
 [交流対象] 小学生（8～9歳）53名

和太鼓はオーストリアで大変人気があり、この学校の生徒、先生も訪問していただくのを大変楽しみにしていた。オーストリアの民族音楽で使用されている太鼓と違い、その迫力ある太鼓の演奏とワークショップに、生徒、先生ともに「楽しい！」と互いに話し、太鼓衆 翔鼓の皆様が与えていただいた、日本文化とのふれあいに感謝されていた。



早稲田大学書道会

[日時] 11月23日（月）08：30～11：30
 [学校名] ガイドルフ小学校 (VS Geidorf)
 [交流場所] 小学校内キッチン
 [交流対象] 小学生（8～10歳）約80名

生徒たちは初めて目の前で見る、書道に大変興味を持った。早稲田大学書道会の皆様より最初に「父」「母」という文字を教えていただき、それからさまざまな漢字を書く体験をした。生徒たちは自分たちで書いた作品を持ち帰ることができ、大変喜んでいました。ワークショップの後には、学校より早稲田大学書道会の皆様に給食がふるまわれた。早稲田大学書道会の皆様もお土産に、筆、墨、和紙をプレゼントしていただいた。



梨羽太郎

【日時】11月24日(火) 09:30~11:30
 【学校名】アルベルト・シュバイツァー中学校
 (Albert Schweitzer)
 【交流場所】中学校体育館
 【交流対象】中学生(10~13歳) 180名

梨羽太郎氏は最初にドイツ語で生徒に挨拶された。そして「剣舞」の披露や、そのワークショップを生徒とともに楽しんだ。また先生はチロル地方の靴踊りを梨羽氏



に教えた。その後生徒たちは梨羽氏から「日本の侍」の話に興味深く聞き、また、梨羽氏の「刀」にも興味を持った。



早稲田ちんどん研究会

【日時】11月24日(火) 08:20~11:00
 【学校名】クローネス小学校 (VS Krones)
 【交流場所】小学校体育館
 【交流対象】小学生(8~10歳) 100名



早稲田ちんどん研究会の皆様は、日本のおはやしやジングルベルなど、楽しい曲を生徒たちに披露し喜んでもらった。そして太鼓などの楽器や着物の説明をしたり、太鼓や玉すだれの実演とともにワークショップをして生徒たちに体験してもらった。また、風船の楽しい形づくりの遊び(ウサギなど)も生徒たちに披露し、ほほえましい交流をしていただいた。

久保徹

【日時】11月24日(火) 08:30~12:00
 【学校名】ニベルンゲン小学校 (VS Nibelungen)
 【交流場所】小学校内キッチン
 【交流対象】学生(9~10歳) 25名

久保様お二人は、生徒たちに日本の伝統的なうどんの作り方を教えて、最後には試食を生徒たちに楽しんでいただいた。まず、生徒たちに手と足を使ってうどん粉をこねていただき、その粉を伸ばしたものを生徒自ら包丁で細長く切っていただいた。そして茹で上がったうどん



をおいしく試食いただいた。このプログラムに参加した生徒の家族から、その生徒が大変喜んで自宅で体験談を話したとの話をその家族と知り合いのスタッフはお聞きした。



転輪太鼓

[日時] 11月24日 (火) 08:30~11:30
 [学校名] ヒルテン小学校 (VS Hirten)
 [交流場所] 小学校体育館
 [交流対象] 小学生 (6~10歳) 180名

最初の小学校低学年に向けての太鼓演奏では、あまりの迫力に生徒たちはびっくりしていたようであったが、次の高学年向けの演奏では、生徒たちは大変興味をもち、ワークショップには積極的に参加し、太鼓を叩くのを楽しんだ。その後、転輪太鼓の皆様は学校内にいる間は生徒たちの注目の的であった。最後のコーヒータ임には、校長先生より心のこもった感謝の言葉をいただいた。



日本伝統古武道法典流練心塾

[日時] 11月25日 (水) 08:30~11:30
 [学校名] ガーベルスベルガー小学校
 (VS Gabelsberger)
 [交流場所] 舞台公演会場 オルフェウム内ホール
 [交流対象] 小学生 (6~10歳) 200名

日本伝統古武道法典流練心塾の皆様より、その歴史や古武道の意義の説明をしていただいたり、演武をご披露いただいた。生徒たちはその演武に大変な迫力を感じているようであった。また、日本伝統古武道法典流練心塾の皆様は、武具も興味深く見学していた。



自然食レストラン洋望荘

[日時] 11月25日 (水) 08:30~11:20
 [学校名] アフリッチ小学校 (VS Afritsch)
 [交流場所] 小学校内作業場
 [交流対象] 小学生 (7~10歳) 50名

洋望荘の皆様が作る作品の過程を生徒たちは固唾をのんで見つめていた。そして野菜からできあがった作品に「なんてきれいなものが野菜からできるんだ。」という声

が生徒たちから上がった。最後に、にんじん、大根から花束を作る作業では、生徒たちは少しだけ手伝うことができた。



大阪府立芥川高等学校 和太鼓部

[日時] 11月25日(水) 08:30~11:30
 [学校名] ボルグ・ドライアーシュツェンガッセ高校
 (Borg Dreierschützengasse Graz)
 [交流場所] 高校体育館
 [交流対象] 高校生(14~18歳) 150名

学校到着時から校長先生自ら出迎えていただき、大歓迎であった。体育館にて音楽を専門とするクラスの生徒の前で、大阪府立芥川高等学校 和太鼓部は太鼓演奏を始めた。まずは最初に太鼓の音の迫力に生徒たちは驚き、そして彼らの太鼓演奏のうまさに圧倒された。途中グラーツの高校側も、バイオリン、アコーディオン、そしてコミカルなドラム演奏で楽しませてくれた。その後、芥川高等学校の和太鼓のワークショップを実施し、芥川高等学校の部員の音頭で、グラーツの高校側は太鼓を叩くことを楽しんだ。最後に用意いただいた軽食を食べながら、同じ高校生同士の歓談は大変盛り上がった。



交流プログラム (老人ホーム訪問)

宝塚茶道同好会

[日時] 11月23日(月) 15:00~17:30
 [老人ホーム名]
 ゲリアトリッシェ・ゲスンドハイツゼンテン老人ホーム
 (Geriatrische Gesundheitszentren-Betreutes Wohnen)
 [交流場所] 老人ホーム内サロン
 [交流対象] 老人ホーム入居者 30名

集まっていたのは、とても元気そうなお老人の皆様であった。宝塚茶道同好会の皆様のお手前、そしてお茶を味わっていただくことをとても楽しんでいただいた。



ご老人の中からは宝塚茶道同好会の皆様へたくさんの質問があり、日本の「茶道」にとても興味を持っていただいた。とても和やかな交流のひとつときであった。



山崎昌伸詩画集

[日時] 11月24日(火) 14:00~17:00
 [老人ホーム名] ローゼンハイン老人ホーム
 (Rosenhain)
 [交流場所] 老人ホーム内多目的ホール
 [交流対象] 老人ホーム入居者 40名

山崎氏は集まったご老人の誕生日の花とそれに添える言葉を描き、ご老人の皆様はその美しさにとっても喜んでいただいた。また、花と言葉の意味にもご老人の皆様は大変興味を持った。ご老人の皆様は山崎氏のためそのご老人のために作成した美しい作品をプレゼントされてとても感動していた。



交流プログラム（専門学校）

The Traditional Japanese Art of Mizuhiki

【日時】11月23日（月）08：30～11：15

【専門学校名】 オルトワインシュール専門学校(Ortweinschule)

【交流場所】 専門学校内教室

【交流対象】 マイスターコース 約30名

日本古来の伝統である水引の説明から交流が始まったが、生徒たちはその説明に興味深く聞いていた。その後、あらかじめ用意いただいた空のワインボトルを優美で美しくラッピングすることなどのワークショップを実施した。生徒たちは時間がたつにつれ、The Traditional Japanese Art of Mizuhikiの皆様をお手伝いいただきながら、その作業に熱中していった。



交流プログラム（家庭訪問・料理）

The Traditional Japanese Art of Mizuhiki

【日時】11月25日（水）09：20～13：15

【訪問家庭名】 ブルナー家 (Ms. Brunner)

グラーツの郊外に住む Brunner 家を訪問した。奥様のドリス氏にオーストリアの伝統的なスープ、牛肉のラグー、アップルパイを作っていたいただいた。はじめは The Traditional Japanese Art of Mizuhikiの皆様は見るだけでしたが、そのうちに一緒になって料理作りを楽しんでいた。ドリス氏がアップルパイの生地をうまく形を崩さず真上に投げて大きくする様子に皆様は驚いていた。できあがった食事は大好評であった。最後にドリス氏の8歳の息子さんが、ギターを弾きながらクリスマスの歌でもてなしてくれた。



交流プログラム（舞踊交流）

スタジオぽこ・あ・ぽこ

[日時] 11月23日（月）18：30～21：15

[交流舞踊グループ名]

フォルクスタンツグループ シュタットテック バイ グラーツ

(Volkstanzgruppe Stattegg bei Graz)

[交流場所] Sportbistro（グラーツ郊外スポーツセンター）

[交流対象] フォークダンス愛好家 15名

お互いのあいさつとみんなで輪になってのフォークダンスを少しすることによって交流が始まった。まずそれぞれ数曲づつ、タップダンスとフォークダンスを披露した。グラーツ側グループはアコーディオンを弾いていた方もいた。そしてそれぞれ、互いの踊りを教えあった。グラーツ側グループにとってはスタジオぽこ・あ・ぽこの皆様が踊るタップダンスは難しいようであったが、お互いににこやかにとても楽しい交流の時を過ごした。



交流プログラム（バレエ交流）

CENTRE de DANSE de OGAKI

[日時] 11月24日（火）12：30～16：15

[交流バレエ学校名] ロイヤル アカデミー オブ ダンス
(Royal Academy of Dance)

[交流場所] バレエ学校内スタジオおよび近くの劇場
(Nice Little Theater)

[交流対象] バレエ学校に通う小学生（10～15歳）10名

CENTRE de DANSE de OGAKI の皆様はロイヤル アカデミー オブ ダンスの学校内スタジオにて、バレエ交流を行なった。ロイヤル アカデミー オブ ダンスの学校長からは「勤勉な生徒さんですね」というお褒めの言葉を頂いた。CENTRE de DANSE de OGAKI の皆様からも、「素晴らしい個性に満ち溢れた表現能力に触れて、当初望んでいた感受性豊かなこの時期にこそ、この学校にて見聞を広められたことは、生徒さんたちの今後の輝かしい未来に素晴らしい思い出になった。」とのコメントをいただいた。



交流プログラム (料理交流)

マクロビッキングスクール

[日時] 11月24日 (火) 08:00~15:00

[交流場所] ライフアイセーホーフ(Raiffeisenhof)

[交流場所] 料理家Mr. Edlerおよび一般市民 30名

この日の料理交流は、日本・グラーツ双方で料理を作り、合同試食会をするというプログラムであった。日本側はマクロビッキングスクールが「マクロビスしケーキ」および「ショコラ風玄米おはぎ」を、グラーツ側はMr. Edlerと彼の助手が「すずき(魚)のバター焼きと野菜のリゾット」と「甘い豆のデザート」を作った。途中お互いに作る過程を垣間見て楽しんだ。来場された市民の皆様はマクロビッキングスクールの皆様より玄米を「型」に入れて「すしケーキ」を作り、上に野菜を置く作業をととても楽しく教えていただき、できあがったケーキをその場で試食した。「すしケーキ」は見た目がとてもきれいで、大変ヘルシーであり、市民およびMr. Edlerに試食を堪能していただいた。また、「ショコラ風玄米おはぎ」はまさに見た目はチョコレートケーキだが、甘くなく、これもとても上品でヘルシーな一品であった。Mr. Edlerと彼の助手が作ったリゾットとデザートも大変おいしく、日本側およびグラーツ市民に大好評であった。最後にマクロビッキングスクールの皆様とMr. Edlerは歓談を楽しみ、交流は和やかな雰囲気で行われた。



西日本友好親善訪問団 交流プログラム

西日本各地から有志が参加している西日本友好親善訪問団は、鉄道関係業務に従事している参加者が多いことから、グラーツ訪問の前後どちらかで世界遺産であるセメリング鉄道（グロブニッツ～ミュルツツシュラク間）に乗車した。

グラーツに到着した翌日は、午前中各滞在ホテルを出発し、現地ガイドの案内のもとグラーツ市内を徒歩で観光。市庁舎やハウプト広場など世界遺産である旧市街や、ケーブルカーでシュロスベルクに上り赤い屋根が続く町並みを一望し、シンボルである時計台を見学。一同は旧市街の美しい町並みに感銘を受けた。その後、ジャパンウィークの目的のひとつでもある国際親善交流の機会として、日本語を勉強しているグラーツの学生との訪問交流会を開催した。学生には何故日本語に興味を持ったのか、勉強した日本語を今後どのように生かしていきたいかという点を切り口にスピーチを展開、訪問者一同興味深く聞き入った。

グラーツ市内観光と日本語を勉強しているグラーツの学生との訪問交流会

[日時] 11月20日(金)・23日(月)・25日(水)・27日(金)

[場所] 各ホテル→グラーツ市内観光→グラーツ訪問交流会



また本年初めての試みで、グラーツに留学している日本人の学生にも参加していただき、日本人から見たオーストリアについても語っていただいた。スピーチの後は質問タイムとなり、日本とオーストリアの違いや、アニメや漫画といったサブカルチャーなどの話題も出て、あっという間の1時間半が過ぎ去った。最後は参加各団体の代表が学生におみやげを手渡し、交流会は終了した。

なお本年はこの他、23日にグラーツ市内のコングレスグラーツにて、オーストリア連邦鉄道との鉄道シンポジウムも開催された。

グラーツナイト

[日時] 11月20日(金)・23日(月)・25日(水)・26日(木)

[場所] ミノリテンザール

今回ご参加いただいた西日本友好親善訪問団の参加者に感謝の意を表するとともに、地元とのより一層の親善交流を図るため、グラーツ市迎賓施設「ミノリテンザール」にて夕食会「グラーツナイト」を開催。

参加者全員が着席後、地元グラーツ国立芸術大学で音楽を勉強されている皆様にミニ・オーケストラ「ライジング・スター」を今回特別に結成していただき、グラーツナイト開会前にミニコンサートを開催した。曲目はモーツァルトやヨハン・シュトラウス2世などを中心とした名曲を選曲。素晴らしい演奏に参加者も感動し、会場内が拍手喝采で包まれた。

ミニコンサートにより会場が一気に盛り上がった後、日本側は23日が鈴木勝雄氏/株式会社日本旅行代表取締役専務、20日・25日・26日が原田好博氏/株式会社日本旅行執行役員西日本営業本部長、オーストリア側は20日がピーター・ハーゲナウアー氏/グラーツ市市議会議員、23日がゲルハルト・リュウシュ氏/グラーツ市市議会議員、25日がペーター・ピツフェル・ペルセビツチュ氏/グラーツ市市議会議員、26日がゲルハルト・マッハー氏/区長のそれぞれのご挨拶で開始されたグラーツナイトは、参加者の皆様にオーストリア郷土料理のコース料理をご堪能いただく一方、食事の間には地元グラーツの少年少女による合唱も披露され、特に「さくら」と最後の「ふるさと」の合唱は、異郷の地で聞く日本語の歌声が聴衆一同に大きな感動を与えた。

そしてこの夕食会は盛況のうちにおひらきの時間となり、来年の開催地ポルトガル、ポルトの案内とともに終了した。



野外宣伝 (パフォーマンス)



早稲田ちんどん研究会

[日時] 11月21日 (土) の午前、22日 (日)、
および23日 (火) の午前、および午後
[場所] グラーツ市内中心地区



早稲田ちんどん研究会の皆様の路上でのパフォーマンスは、目立つ衣装、ライブの音楽によって大変多くのグラーツの市民を魅了した。早稲田ちんどん研究会の皆様はオーストリアの曲を演奏したり、市民の皆様にドイツ語で挨拶したり、風船で子供たちのために動物を作ってあげたりしていただいて市民を楽しませてくれた。中にはオーストリアの歌を演奏していただいていたときにその曲に合わせて踊りだす市民の方もいた。

皆様のパフォーマンスはジャパンウィークへ市民の関心を取り込んでいただいた。市民と身近なところでふれあいながらの貴重な野外宣伝であった。

現地市民からのコメント

Dear Mr. Abe!

I was one of the visitors of the Japan Week 2009 held in Graz (Austria). We met on the 26th of November after the end of the stage performances at 'congress graz', where we exchanged our business cards.

I want to sincerely thank you and the International Friendship Foundation for having held this festival in Graz. I have visited it on every single day between the 21st and the 26th of November. It was the most impressive and best organized Japan-related event that I have ever been to. The performances and exhibitions of all the participating groups were absolutely great. Moreover, I liked the sociability of this festival very much. The complete absence of political or commercial interests contributed a lot to the pleasant and authentic atmosphere. It was very nice to see that many of the Japanese visitors actively sought contact with us Austrians. Having conversations with the people of your country was a great joy for me, and I hope that it was also a great joy for them.

The fact that apparently every group and every family who participated in the Japan Week came here on their own expenses is something that I really honor above everything else. I hope that they all were able to find what they were hoping to find on this festival.

Thinking about that the Japan Week is over now makes me feel a little bit sad. It will probably take a long time until a festival of such a high class will be held again in Graz or Austria respectively. However, I hope that some of the Japanese visitors started to like the city of Graz and its inhabitants so much that they want to come again someday. It would be very nice if the International Friendship Foundation kept good contact with the people and organizations here to promote further visits and cultural exchange between Graz and Japan.

Again, thank you very much!

Yours sincerely,

BREITWIESER Herwig



阿部様

私はオーストリア・グラーツで開催されたジャパンウィーク 2009 を訪問した者です。私は貴殿と 11 月 26 日のコンGRESS・グラーツ（ステファニエンザール）で開催された舞台公演の後で名刺交換いたしました。

私は貴殿と貴協会にこのイベントをグラーツで開催していただき心より感謝いたします。私はこのイベント見学に 11 月 21 日から 26 日まで毎日通いました。このイベントは私が今まで訪問した中で最も強い感銘を受け、日本に関連する最もよくまとまったイベントでした。ご参加された公演および展示のすべてのグループがとてもすばらしかったです。その上、私はこのイベント（フェスティバル）の親しみやすいところが大好きでした。そして政治的、または営利的な利害関係がまったくないことがこのイベントをとっても楽しく信頼できるものになりました。多くの日本からの参加者が積極的にオーストリア人とのふれあいを持つと努力されていたのを見てとてもすばらしく思いました。私にとって貴殿の国の方々と会話できたことは大変な喜びであり、ふれあいをもったオーストリア人にとっても同様であったと思います。

ジャパンウィークに参加するために、すべてのグループとすべてのご家族がご自身の費用でグラーツにお越しいただいたという明白な事実は私にとってこの上なく光栄なことです。

ご参加された皆様がこのイベント（フェスティバル）で見つきたいと期待していたものを見つけられたことを望んでいます。

今ジャパンウィークのことを考えると、私は少し悲しくなります。それはグラーツ、いやオーストリア国内で再びこのジャパンウィークのようなハイクラスのフェスティバルが再び開催されるまでにはおそらく相当長い時間がかかると思われるからです。しかし、私はご参加された参加者の中で、グラーツとその市民を大変気に入っていただき、またいつかグラーツにお越しいただける方がいらっしゃることを期待しています。貴協会がグラーツの人々とグラーツにある組織との連絡を保ち、グラーツと日本とのさらなる行き来や文化交流を促進する架け橋となっただけならばとてもすばらしいでしょう。

最後に改めて、

本当に あり が とう 。

BREITWIESER Herwig

街での宣伝・ボランティア一覧



ボランティア

Lindi Rott	Julia Melcher
Julia Lesky	Christa Bstieler
Stefan Herzog	Kathi Hadolt
Anna Stuhlpfarrer	Liza Brandstätter
Verena Kögler	Yola Kipcak
Georg Oberdorfer	Chris Fellner
Karin Pichler	Helmut Hödl
Holzer Veronika	Alex Fellner
Maria Haas	Robert Schütky
Anna Obermayer	Susi Robert
Lena Klambauer	Daniela Knapp
Philipp Lehner	Lisa Nußhold
Valentin Zauner	Astrid Beranek
Bianca Fischer	Johannes Scherling
Karin Wurzinger	Shogo Sawada
Bernd Hollerit	Saya Harada
Claudia Loher	Yuki Otake
Marc Moser	Yoko Mihara

日本からの特別スタッフ

富澤 美緒 吉田 恭子

ボランティアをリクルートしていただいた方

Mag. Mariko Fellner Miyayoshi
Mag. Dr. Kaori Sohar



新聞記事

24 BIG

BILDERGALERIE

Dezember 2009

Bye-Bye Japan! 350 KünstlerInnen aus dem Land des Lächelns sorgten während der Japan Week in Graz für kulturellen Austausch. Dank des Engagements von Bürgermeister Nagl und dem Referat für Internationale Beziehungen wurde die 140-jährige Freundschaft in der steirischen Landeshauptstadt so bunt gefeiert.

Scheindler schauen! Innenministerin Maria Fekter und Stadträtin Sonja Grabner (li.) wollen den Unt...

KULTUR

MONTAG, 23. NOVEMBER 2009, SEITE 42

Die Anmut des Holzstaberls

Dank Japan Week geht derzeit in Graz oft die Sonne auf. Der erste Abend bescherte rasende Massagen am Trommelfell und zart besätzte Popkultur.

JAPAN WEEK Bühnenshows. Täglich wechselndes Programm im Ophyteum Graz, 19.30 Uhr. **Konzert,** diverse Orchester, 26. 11., Stephaniensaal, 19.30 Uhr. **Ausstellungen:** Uki Graz, Stadtmuseum & Schloss Eggenberg, www.graz.at/japanweek

JULIA SCHAFFERHOFER

Japan, erzählt die Tradition, trommelt man, um die Götter aufzuwecken. Das Weckprinzip der japanischen Trommlertruppe Terindako funktioniert nun anlässlich der Japan Week auch in Graz. Mit jedem Schlag. Da massieren Riesenhohlstäbe das Trommelfell, jenes des Publikums und jenes der lächelnden Taiko-Trommel, die als Wohnort der Götter gilt. Das klingt wuchtig und warmherzig zugleich. Die Trommler vollführen ein Messerkampfballett, das am...

gen Art stärkere Arme, ge-grätschte Beine, erster Blick, weiße Socken. Jeder Schlag sitzt, als wäre er ein Unikat, gemeinsam rasen sie zum brachialen Trommelwirbel. Hellwach lauscht das Publikum dem Herzschlag der Götter. Am bunten Eröffnungsabend ist das Orpheum in Graz bis auf den letzten Platz gefüllt.

Modernes Popmärchen Der Bogen spannt sich von traditionell bis zu zeitgenössisch. Populäre Nix, mit ihren sechs Alben ein Superstar in ihrer Heimat, zambert zarte, so-geilge Töne zur weich gequillten Gitarre. Ihr Zweitjob auf der Bühne: Japanisch-Lehrerin. Sie lässt den Saal auf japanisch alken. Ein zungenwackeliger Test.



Herzrasen mal zweit: Oben die Trommler von Terindako, links die Tänzerin von Arakawa's Dance (NARA KENJI ©)

Japan, tausende Kilometer entfernt, startet Graz eine Stippvisite ab 1000 Japaner, 300 Künstler von 45 Gruppen lassen noch bis Ende der Woche die Sonne aufgehen: mit Ausstellungen, Musik, Schwerkämpfen et cetera. Besonders zu empfehlen ist dabei die Bushi-Tanztruppe „Kanawa Bushi-Kai“ (Dienstag), die der Japan-Experte Herbert Nischols nach Graz geholt hat. Fazit von Tag eine So viele Klatscher sind selten zu hören. Leider so mancher Miträucher auch während der Darbietungen. Bilderarchiv: www.kleineszoo.at/graz

紀州タツで世界と交流

「あはこ」の出場

紀州タツで世界と交流... 紀州タツで世界と交流... 紀州タツで世界と交流...

Reise ins Land des Lächelns

Kleine Loseratte trifft gruselige Vampire

Zwanzig Jahre danach

Ankling und Aufbruch

GRAZ

MITTWOCH, 30. JULI 2008, SEITE 21

„Sayonara“ 2009 in Graz

Der Stern ist es fix: Im November 2009 findet in der Murmetropole ein großes Japan-Festival statt – mit allein 1500 (!) Künstlern.

MICHAEL SARRA

Even noch lobten die Teilnehmer der „World Choir Games“ Graz buchstäblich in den höchsten Tönen – schon hat die Murmetropole den nächsten Termin fixiert, um sich als Gastgeberstadt international auszeichnen zu können: „Im kommenden Jahr wird die große „Japan-Week“ in Graz stattfinden. Im Zuge dieses Festivals, das schon 1974 begann, werden allein 1500 Künstler zu uns kommen“, verrät man gestern seitens des Büros von Bürgermeisteriegfried Nagl (VP) der Kleinen Zeitung.

Es wird bereits Japan-Week Nummer 34 sein, die vom 21. bis zum 26. November 2009 über die Bühne geht. Japanische Künstler aus allen möglichen Bereichen – vom Theater über die Sparte Tanz bis hin zu Kochkünstlern – werden für große Augen im Publikum sorgen. Doch neben Konzerten und Showeinlagen sind auch Ausstellungen und Workshops geplant. „Und natürlich werden alle Grazerinnen und Grazer eingeladen, bei verschiedenen Aktionen aktiv mitzumachen“, betont man im Büro Nagl. Dieser empfing gestern gemeinsam mit Vizebürgermeister

2004 gastierten die Yamato-Trommler aus Japan in Graz. Fünf Jahre später kommen 1500 (!) Künstler.



Eine Delegation aus Japan wurde gestern im Grazer Rathaus empfangen.



Die nächste ist seit gestern fix.

in Lisa Rücker (Grüne), SP-Klubchef Karlheinz Herper sowie Graz-Tourismus-Chef Dieter Hardt-Stremayr eine japanische Delegation, um letzte offene Fragen klären – und anschließend auf ein „Sayonara 2009 in Graz“ anzustoßen.

Die nächste ist seit gestern fix.

JAPAN WEEK



◆ Das japanische Kulturfestival vom 21. bis 26. November in Graz. Der Eintritt ist frei!

IFF TOKYO

Japanische Kultur von Koto-Musik bis Butoh-Tanz

Versäumen Sie nicht die sensationellen Bühnenprogramme während der Japan Week von 21. bis 26. November in Graz. Japanische Gaukler, Trommler, Ballett, Schwertkampf, traditionelle Tänze, Kimono-Vorführungen und vieles mehr werden von Samstag bis Mittwoch im Grazer Orpheum gezeigt.

Den Abschluss bildet das Festival der Musik am Donnerstag,

dem 26. November, im Stefaniensaal. Tagsüber präsentieren die japanischen Gäste traditionelle Künste in der Alten Universität in der Hofgasse. Mitmachen ist erwünscht – ideal auch für Schulen und Gruppen!

Der Eintritt zu allen Vorführungen ist frei, Zählkarten können per E-Mail vorreserviert werden.

INFOS: www.graz.at/japanweek

8 SHOPPING SPEZIAL



JAUSENBOX. Kein japanisches Schulkind geht ohne Bontobox außer Haus. Für heimische Kids: Box von MomiJI, Graz.



TEERITADITION. Unentbehrliche Utensilien für die Teeceremonie: Matchapulver und Teebesen. Gibt's bei MomiJI in Graz.



KLEINER STÖPSEL. Der schwimmende japanische Fischer passt auf, dass die Seife nicht ins Wasser fällt. Von kwit, Graz.



MANGAMANIA. Ob Jung oder Alt, alle lieben die japanischen Comics. Alle Neuheiten gibt es bei Comic and Cars in Graz.

KLEINE ZEITUNG MITTWOCH, 18. NOVEMBER 2009

KLEINE ZEITUNG MITTWOCH, 18. NOVEMBER 2009

SHOPPING SPEZIAL | 9



ECHT SCHARF. Das Wakizashi ist gleichermaßen „Sportgerät“ wie Schmuckstück. Schwert wie Scalp-Sporgasse, Graz.



READY, STEADY, GO! Go, das meistgespielte Brettspiel der Welt, gibt es japanisches Schach. Von Kastner & Ohler.



SUSHI FÜR'S GESICHT. Der wabbelige Aqua Marina Cleanser von Lush reinigt das Gesicht mit japanischen Nourishern.



BASTELSPASS. Die traditionelle Kunst des Papierfaltens ganz einfach mit dem Fant-Manuten-Origami-Set von kwit, Graz.

DREI FRAGEN AN ...



Heinz Kaltschmid, Projektleiter der Japan Week 2009

„Japan bringt Glück“

Was bringen die Künstler aus dem Land der aufgehenden Sonne nach Graz mit? HEINZ KALTSCHMID: Atemberaubende Shows, Workshops und Ausstellungen. Und auf jeden Fall eine Menge Glück. Und in dieser grauen Jahreszeit.

Und was bringt der Besuch aus Japan der Stadt Graz?

KALTSCHMID: Eine immense Anzahl an Nüchternen. Neben den 350 Künstlern kommen noch hunderte weitere japanische Gäste, die sich für die österreichische Kultur interessieren.

Was werden Sie sich ansehen? KALTSCHMID: Alles! Am meisten aber freue ich mich auf die Udönudetherstellung und -verkostung.

Auf dem Teeweg zur Japan Week

In drei Tagen ist es so weit: Künstler aus dem Land der aufgehenden Sonne werden Graz in Atem halten. Bis dahin heißt es: Abwarten und (japanischen) Tee trinken! Tee-ologe Harald Hengl schildert das Ritual des japanischen Teewegs.

Aus europäischer Sicht ist die japanische Teeceremonie ein simpler Vorgang: Der Gastgeber bereitet den Tee zu, die Gäste trinken ihn. In Japan aber ist der Cha-do, der „Weg des Tees“, eine rituelle Handlung, die genauen Regeln folgt und der inneren Einkehr dient.

„Die japanische Teeceremonie ist eine Form der Zenmeditation“, erklärt der Grazer Historiker und Volkskundler Harald Hengl, der sich seit vielen Jahren mit der Kulturgeschichte des Tees beschäftigt. Bei der Zusammenkunft reinigen die Gäste Hände und Mund, ehe der Gastgeber mit einem Gong dazu einlädt, den Teesaum zu betreten. „In diesen gelangt man ausschließlich durch eine kleine Öffnung – kriechend. Damit beweist der Gast Demut“, weiß Hengl. Mit dieser Handlung werden auf der Schwelle ins Innere auch alle gesellschaftlichen

Unterschiede abgelegt. „Selbst die mächtigen Shogune mussten ins Teehaus kriechen“, so der Japanliebhaber, der gerade dabei ist, sich ein eigenes Teehaus im Garten zu errichten. Bevor die Gäste den bitteren Matchalee zu sich nehmen, werden Süßigkeiten gereicht. Dann bereitet der Gastgeber den Tee zu. „Die Kunstfertigkeit ist dabei, das Pulver mit dem Löffel so in die Tasse zu geben, dass ein kleiner Hügel entsteht, der in seiner Form dem höchsten Berg Japans gleicht“, schildert Hengl das Ritual. Anschließend werden Teepulver und Wasser mit einem speziellen Teepinsel vermischt. Der Gast bekommt drei Gänge Tee serviert, zwei dünn- und einen dickflüssigen, der „ein bisschen wie Spinat aussieht“, lacht Hengl.

Teeceremonie selbst erleben: Wer selber ausprobieren will, wie japanischer Tee schmeckt, kommt am besten zu den Teeceremonien der Japan Week. Auch Harald Hengl wird vor Ort sein und allen Interessierten Ryukoban, die Basisform der Teeceremonie, zeigen. Wer weiß, vielleicht kann er einige Grazer auf den Weg des Tees führen. CORNELIA SCHLAGBAUER



Mehr als bloß Tee trinken: Der japanische Teeweg ist ein meditativer Ritual

JAPAN ZU BESUCH IN GRAZ

21. BIS 26. NOVEMBER Japan Week: Japanische Künstler zeigen bei Bühnenshows, Ausstellungen, Workshops und Zeremonien die Kultur ihrer Heimat. Programm: Schwertkampf, Trommler, Gaukler, Kimonoshow, Butoh-tanz, Ballett, Teeceremonie, Kalligraphie, Ikebana, Origami, Volksmusik, moderne Musik, Udönudetherstellung, japanisches Kinderspielzeug zum Ausprobieren, Spezialführungen

zum japanischen Stellschirm in Schloss Eggenberg. Programmänderungen vorbehalten. Mitmachen: Die Besucher sind eingeladen, bei den Künstlergruppen mitzumachen. Tickets: Alle Eintritte bei der Japan Week sind frei. Zählkartenausgabe für Bühnenprogramme beim Japan-Week-Stand am Grazer Hauptplatz. Anmeldung für Teeceremonien erforderlich. Infos: www.graz.at/japanweek

Manchmal muss es etwas ganz Besonderes sein

Ein toller Tipp für ein garantiert individuelles Weihnachtsgeschenk: Schenken Sie Kaffee oder Tee mit Ihrem eigenen Private Label! Die Abwicklung ist denkbar simpel: Ihr Logo (oder das Logo des zu Beschenkten) wird einfach auf Etiketten bzw. Bänderrollen gedruckt. Die eigene Kaffee- oder Teemarke ist bereits ab 50 Exemplaren möglich und enthält Bohnen von allerhöchster Qualität. Wenn es ein hochwertiges Kundenpräsen sein soll, dann lässt sich das Ganze auch in exklusiven Geschenk-Sets verpacken.



Kreieren Sie für Ihre Liebsten (oder Ihre Kunden) eine eigene Tee- oder Kaffee-Marke

J. HORNIG: Wagnier-Blau-Str. 39-41, Graz, Tel. (0316) 509-572, www.hornig.at

ANZEIGE

RÄTSEL HAFT

Vom Arme-Leute-Essen zur Spezialität

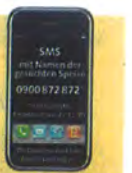
Es ist keine Pasta, darf in der italienischen Küche aber auf keinen Fall fehlen! betont Hausenkech und Corti-Chef Engelbert Tschuch und Corti-Chef Engelbert Tschuch die Wichtigkeit seiner absoluten Lieblingspeise. Die Zubereitung der goldgelben Kästlichkeit ist zwar einfach, dafür aber kräfteraubend. Bis zu einer Stunde beständiger Mühe ist notwendig, damit die Masse für die nahrhafte Speise nicht anbröckelt und keine Klumpen entstehen.

Hausenkech und Corti-Chef Engelbert Tschuch vom Restaurant Corti in Graz



es gerne und hat ein Kochbuch geschrieben, das sich mit der Spezialität des Hauses befasst. Die Speise, die von Spanien bis Südrussland serviert wird, kommt in Österreich oft als Brei oder Sturz auf den Tisch, kann aber auch als Suppe, Auflauf, Knödel, Beilage oder Süßspeise gegessen werden. In Norditalien ist das traditionelle Gericht so beliebt, dass die Südtiroler ihre nördlichen Landsleute liebevoll „polentoni“ nennen. Wie heißt die Lieblingspeise von Engelbert Tschuch?

Zu gewinnen gibt es diesmal einen 50-Euro-Kommunikationsgutschein im Restaurant Corti in der Grazer Münggadenstraße.



SMS mit Namen der geliebten Speise an 0900 872 872

開催時の現地の様子





編集後記

今回のジャパンウィーク開催にあたり、グラーツ市側関係者並びにオーストリア側実行委員会の日本・オーストリア友好のための熱心な受入の協力に感謝申し上げます。またジャパンウィーク運営を支えてくれた、オーストリアにおいては在オーストリア日本国大使館、そして日本においてはオーストリア政府観光局の皆様方に厚く御礼申し上げます。わけても昼夜を問わず共にこの運営に携わっていただいた現地コーディネーターそしてジャパンウィークの主旨にご賛同いただき、お忙しい中にも関わらずボランティアを買って出てくれた皆様方、そして有形無形でご支援いただいた関係者の方々のご協力なくして無事終了する事は出来ませんでした。ここに深く感謝申し上げます。

また経済情勢をはじめとする、世界が依然混沌とする中で、日本全国各地よりジャパンウィークの趣旨にご賛同いただき、日本・オーストリアでの草の根レベルの国際交流にご活躍された皆様方に厚く御礼申し上げます。

真摯な相互理解・異文化理解の輪を広げて、世界が心一つになれることにジャパンウィークを通じて貢献できれば幸いです。

皆様方のご支援・ご協力を引続きお願い申し上げます次第です。

助成



財団法人 双日国際交流財団



助 成



財団法人 双日国際交流財団

主 催



財団法人 国際親善協会

〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-4 鳴原ビル 3階

TEL : 03-5802-0351 FAX : 03-5802-0353

E-mail info@iffjapan.or.jp

URL <http://www.iffjapan.or.jp>